

NEW PHASE

ニューフェイズ

～いつも気持ちを新たに、新しい風にのせて～

2022.12 No. 43

contents

特集号「ダイバーシティ社会で活かせる女性力!!」／基調講演・パネルディスカッション・講話…………… 1～6
女性の翼OK基金…………… 7
瑞宝双光章・賛助会員ヘインタビュ―…………… 8

特集号

「ダイバーシティ社会で活かせる女性力!!」



2022年度沖縄県女性海外・国内セミナー「女性の翼」第39期研修が2022年11月4日(金)～6日(日)及び第29回宿泊研修会が11月5日(土)～6日(日)、恩納村リザンシーパークホテル谷茶ベイで行われました。11月5日(土)浜美枝氏による基調講演が行われ、研修会参加者(約130人)は合同で聴講しました。



〈基調講演〉

復帰50周年記念特別企画

沖縄(うちなー)女性の歩んだ道

「沖縄と私の50年」

女優・ライフコーディネーター

浜 美枝氏

浜氏は、女優であり、テレビで司会などをやってきたが職業と言われたら旅人と答えたいと語り始めた。読谷山花織の復元をした人間国宝の与那嶺貞さんとの出会いが人生を変え、出会えたのは幸運だった。女の人生はザリガナ(もつれた糸をほぐすこと)、根気よくほぐしていった1本の糸になるとの言葉を紹介し、辛抱強さと優しさ、希望を持ち合わせている沖縄の女性たち・女性の翼こそが21世紀のよりよい社会を作る大きな力となることを信じている。また沖縄戦に触れ、日本復帰50年、今なお基地があることを本土の人にもっと知ってもらいたいというのが50年の実感。

2年半にわたるコロナでの大打撃。先が見えない状況でのフラストレーションが女性や子供の弱者に向かう。沖縄では近年、DV被害者が増え、シングルマザーも増えているとき。今すぐ待ったなしでサポートを必要としているこうした女性たちのために活動をしている「女性の翼」のOK基金を紹介し、行政の制度では間に合わない緊急の対応を支えていると話し、これからはますます女性の翼の活動が必要になってくる。

今、ここに期しているのは首里城の再建で、沖縄の職人のすばらしさを全国にもっと知ってもらいたい。復元するには職人さんがなくてはならない。今年80歳になられた外間よしかずさんを紹介。首里城復元再び挑む。外間さんは焼失する前の首里城を48歳の時に携



浜氏とパネリスト



参加者

わった。今回も再び再建に挑む。それがうれしい。また、101歳でなくなった平良敏子さんは、芭蕉布の再生に一生を捧げる。沖縄には素晴らしい工芸がたくさんある。その沖縄の伝統工芸を知ってもらうために、私もこれから発信できたらいいなと思っている。また15歳でバスの車掌として学んだことが3つあると話し、生きていくことの基本は
①命を守る ②お金 ③時間厳守 これを15歳で経験し学んだと。
経験を自分のものにして、自分らしく人間らしく仕事をして世の中のお役に立つ。それを皆さんが実践している。心から尊敬する。これからは沖縄のために、世界のために社会参画をして、女性の翼がよりさらに翼を広げて一人ひとりの幸せのために活動が続けていただきたいとエールを送った。

〈講話1〉
39期

「海外・国内セミナー」

テーマ：updating myself~昨日までの自分を越える~

講師：新垣奈々氏(OIST研究支援ディビジョン シーケンシングセクション リサーチサポートリーダー)



新垣氏は、私という人間が仕事などのしがらみから解放されて一人の人間として歩み始めた物語を語りたいと始める。0章で自己紹介1章で仕事紹介、2章で私の履歴書としてアップデートする前の自分とその後の自分、3章で職場でマネジメントすることになってしまった経緯と直面した問題などを語る。

新垣氏は小学校の時に世界の大統領になりたいと夢を持った。その夢を実現させるためにむしやりに勉強した。東大の大学院を卒業しOISTに就職した。おばあや両親は皆喜んでくれた。

OISTは国籍の違う職員が多く、多様性に富んだ学校である。採用されたときは事務職だったが途中で技術職に転身。さらにチームを引っ張るマネージメントリーダーを務めることになる。現在42歳、28歳で経済的自立を、35歳で精神的自立を果たす。35歳で精神的自立が出来たのは沖縄大学の樋口耕太郎氏とその著書「嫌われる勇氣」の出会いによる。それまでの考えが音を立てて崩れるような体験をした。自分を育ててくれたオバアや両親に喜んでもらうために頑張ってきたことを自覚させられた。自分の人生は自分で決めて良いことを知った。そのごチームのマネージャーになるために勉強。仕事、家事、育児の両立のため生活を直すあらゆる努力を惜しまなかった。最後にこの2年間新型コロナウイルスのため、PCR検査を行うようになり、ただでさえ忙しい職場が戦争状態になった。

しかし沖縄県民のために協力できたことに満足感がある。常に、昨日とは違うupdatingする自分でありたいと結ぶ。



〈講話3〉
39期

「海外・国内セミナー」リモート講演 (東京 (A) 恩納村)

テーマ：グローバル・スタンダードから考える日本の男女共同参画

講師：越智方美氏(独立行政法人国立女性教育会館 研究国際室 客員研究員)



越智氏は、国立女性教育会館の役割について紹介。男女共同参画社会実現のため、女性リーダーの育成、調査研究、女性の活躍情報の発信、国際貢献として人材育成などを担っている。更に男女共同参画に関する用語の整理をしたいと説明。①ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」、参加と参画のちがいは「参画」は主体的に関わること、機会の平等と結果の平等の違いなどについて説明。「男女共同参画」とは日本国内での「政策用語」(英語ではgender equality)である。②次に世界から見た日本のジェンダー平等について「世界経済フォーラム」の調査によると、健康、教育参画では世界の水準並だが政治、経済参画では世界に遅れをとっている。2022年のグローバル・ジェンダー・ギャップ指数は146カ国中116位となっている。③では日本は何故男女共同参画が低迷しているのか、政策は出来ても実践が伴っていない、意思決定分野における人材登用の遅れ、政策・立案決定の目標値を達成しなくても罰則がない。④この現状を変えるには何が必要?一定数を女性に割り当てるクォータ制の導入はどうか?フランス、イギリス、ドイツ、韓国などは様々な形でのクォータ制が導入されている。日本はそれが無い。また⑤何故、政治参画が少ないのか。性別役割分業意識、家族責任(育児、家事、介護)、選挙制度(小選挙区制、供託金)などが障害となっている。国家公務員の育児休業取得率は平成30年度では女性98.5%に対して男性は12.4%である。育児取得率が進まない理由、代用要員の確保、男性自身に育休をとる意識がない、などの理由がある。

最後に先進国はどうか、北欧の小さな島国アイスランドでは政治経済参画は男女ほぼ同数。何故この様な事が実現できたのか。草の根の女性運動(家事などの女性の無償労働はおかしいなどの意識)、高い労働組合参加率、限られた人的資源を最大限生かした等がある。これからの若い人たちに男女共同参画意識をしっかりと体感して欲しいと結ぶ。



復帰50周年記念特別企画 “沖縄女性の歩んだ道”

〈パネルディスカッション〉

パネリスト：大嶺千枝子(元県看護協会会長) 普天間初子(株オーディフ会長 25期)

新垣 幸子(元県出納長 7期) 山城ヒロ子(元県議会議員 9期)

進行：崎原 末子(副会長 25期)

パネリスト



大嶺氏



普天間氏



新垣氏



山城氏

進行



崎原氏

沖縄復帰50周年特別企画として後輩のロールモデルとなった方々を、お迎えしディスカッションを行った。看護の分野から大嶺千枝子氏、経済、産業、経営の分野から普天間初子氏、行政の分野から新垣幸子氏そして地域活動、議員の分野から山城ヒロ子氏の4人である。進行は副会長の崎原末子が務めた。パネリストには、終戦直後及び復帰前後の状況、現在に至るまでの社会環境と、自らの状況を語ってもらった。

まず、大嶺氏は戦後の看護の状況を語った。戦後、沖縄ではアメリカ政府(ユースカー)の指導のもと看護の身分制度に着手、制度化は本土より遅れたが、中身は本土より高い水準で看護教育制度が行われた。高卒での受験、琉球大学との委託制度、米留学制度などが行われた。しかし看護大学になるまでに50年の歳月を要したことなどが話された。米留学でハワイに

行った時その豊かさや白い皮の看護靴に憧れ初任給で白い革靴を買ったことを懐かしく話す。

普天間氏は戦争が始まった1941年に生まれ、食糧難の時期に成長期を迎え、戦後生まれの弟や妹と比べると自分は身長が伸びなかったことから、食に対する関心が芽生えた。父親の勧めもあって栄養士になることを決意する。東京の大病院での病院食を皮切りに夫の転勤にあわせて栄養士の仕事をした。復帰直後夫の転勤が沖縄に決まり仕事も辞め、子育ての一番辛いな時を過ごした。子供も少し手が離れるようになった時、仕事を再開した。1983年には学校給食栄養士として起業し、現在のオーディフの始まりである。

新垣氏は伊江島で生まれ、父は灯台守だったが戦争で伊江島は焼け野原。1945年4月に戦死。母も渡嘉敷島で戦死、姉は捕虜収容所を出てから糸満で戦死。自分だ

けが残された。おじいおばあに育てられた。18才で琉球政府に採用され行政との付き合いが始まる。2度目の業務が援護課。夫は本土に単身赴任、3人の子育てに忙殺される一番大変なときでもあった。

その後社会課、予防課、中部福祉事務所でケースワーカーなどを経験するその間仏教大学の通信教育で社会福祉主事の資格を得る。このときのスクーリングは遅く来た青春時代であった。

山城氏は1962年大同火災に



フロアの様子

就職、1965年結婚、夫は教員で離島勤務が多く単身赴任のため子育てはほぼ自分一人で行った。1972年仕事復帰し八重山保険銀行に就職、この頃マイホームを建て、大阪にいた両親を八重山に呼び寄せた。それからは親に子供を任せ、思いっきり仕事や婦人会活動などに専念できた。そんなとき市議員選挙に出ないかと押される。以降市議員10年、県議会議員8年を過ごす。議員はやめても今もなお、選挙管理委員長に携わるなど社会貢献は変わらない。

最後にそれぞれ今日のフロアの参加者に次のようにエールを送った。「日々模索し続けることが夢になる」「今日が一番若く美しい思いながら1日1日を大切に生きていきたい」「一人一人できることを合わせれば成し遂げられる」「声がかかった時がチャンス!可能性を信じて挑戦しよう!」「昨日と同じことをしていても成長はない」

〈講話6〉

39期

「海外・国内セミナー」・29回 宿泊研修会

テーマ：「ていするの相談事業」について

講師：上與那原美和子氏（公益財団法人 おきなわ女性財団 常務理事）



女性財団の事業の内、「相談事業」に特化して説明があった。財団は「女性相談」「国際女性相談」「にじいろ相談」「男性相談」の4種の相談事業を行っている。

「女性相談」は女性が抱える家庭や職場、身体の不調などに對して女性の相談員が対応している。「国際女性相談」は外国人との結婚・離婚など様々な問題に對して女性の相談員が対応している。「にじいろ相談」はセクシャリティに関する悩みなどに對して男女に関係なくだれでも相談できる。そしてこの三種の相談は電話と面接による相談であるが、面接の場合には予約が必要。「男性相談」は男性が抱える悩みを男性の相談員が対応する。「男性相談」は電話のみの相談である。

上與那原氏は年間の相談件数や相談内容の傾向について紹介した。また相談は無料、秘密厳守、一人で悩まず相談して欲しいと語った。



あなたとわたしの笑顔が みんなのHAPPY

「OK基金」は

様々な困難な課題を抱えた母子と女性の自立を支援する活動を行っています。

支援状況		
2020年～2021年度	27件	1,276,064円
2022年(10月現在)	10件	473,842円

*支援を受けられる方

- ① DV 被害者
- ② 子を養育する母親と子ども
- ③ 様々な理由により貧困状態にある女性

※公的・私的施設又は居宅において支援者が自立支援のため行政サービスや色々な団体のサービスを活用してもなお、不十分でOK基金の活用が必要、適切と認め、本人が資金活用を望まれる方です。



★OK基金活用を希望する方、施設の支援員や市町村役場の女性相談員にご相談ください

*『市町村及び関係機関へ OK 基金説明会』を実施しました

8月～10月の間、沖縄県女性力・平和推進課の協力を頂き、南部・那覇・中部・北部・宮古・八重山の6地区で説明会を実施し、DV防止相談支援センターや母子生活支援施設等の関係機関や団体と市町村母子支援担当者、地域翼及び翼会員153名にご参加頂きました。

説明会では、OK基金の設置目的や支援実績を報告、支援対象者や申請・決定の仕組みを説明しました。ご参加の関係機関の皆様から、OK基金の趣旨へ賛同の言葉を頂き、担当者が日頃抱えている課題等、活発な意見交換になりました。

これを機に地域のネットワークの形成、強化に繋がる事を期待します。第39期宿泊研修会においても、OK基金の概要説明と実績報告を行い、基金の趣旨への理解と募金活動への協力をお願いしました。



女性の翼・OK基金へのご協力をお願いいたします!

●寄付金振込先

- 沖縄銀行県庁出張所 店番012 普通預金 1303558
一般社団法人 沖縄県女性の翼・OK基金 会長 奥村啓子
- 琉球銀行 県庁出張所 普通 194070
一般社団法人 沖縄県女性の翼 会長 奥村啓子

※みらいファンド沖縄のホームページより寄付すると税控除の対象となります。

<https://miraifund.org/kikin/joseinotsubasa/>

募金活動
協力者
募集中!!



「海外・国内セミナー」(事前研修)

時：2022年10月1日(土)10時～17時

場所：沖縄県男女共同参画センターていする(ふれあいサロン)

〈講話1〉
39期

テーマ：「男女共同参画社会の実現に向けて(沖縄県の取り組み)」

講師：島津典子氏(沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課課長)



島津氏は、男女共同参画に関する法律、沖縄県の条例、DEIGOプランなどについて説明し「男女共同参画社会基本法」は、男女が平等に社会のあらゆる分野で参画する機会が確保され、政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することが出来る社会を実現する為に作られた法律(基本法)で1999年に施行。この法律に沿うような社会を実現するために次の5つの基本理念を設定。①男女の人權の尊重、②政策等の立案及び決定への参画③制度または慣行への配慮④家庭生活における活動と他の活動の両立⑤国際的協調調国は具体的に何をどう進めようとしているのか?



第5次男女共同参画基本計画(2020年12月25日に閣議決)では政策における分野を11分野に分けてあげている。その内容の主たるものは以下のようである。
・昭和の働き方から(男性中心)の脱却
・女性が健康的に活躍できる社会へ。
・2020年代の可能な限り早期に指導的地位に占める女性の割合が30%へ。
・民間企業における男性の育児休業取得率を2025年までに30%へ。
・人口減少化、女性の長寿化、デジタル社会、女性に対する暴力の根絶、災害の多発などに対する女性の視点からの対応へ。
その他計画に関連する法律としては「女性の職業生活における活躍推進法(2015年成立)」では国や、地方公共団体や民間事業主は行動計画を策定することが求められている。「政治分野における男女共同参画推進法(2019年成立)」では男女の候補者ができる限り均等となることを目指す事が求められている。沖縄県の意識調査によると、男女の家事は女性が平均3時間45分に対し男性は45分。男女の地位の平等感については8割の人が「男性が優遇されている」と答えた。その他沖縄県の第6次沖縄県男女共同参画計画(DEIGOプラン)にも話は及んだ。(詳細は翼HP資料編参照)

〈講話2〉
39期

テーマ：女性の生きざまにみる沖縄移民、世界のウチナンチュたち

講師：玉城直美氏(沖縄NGOセンター代表理事)



玉城氏は、他国の教育に興味があり、九州青年の船で中国、韓国を訪れた。大学4年にはハワイに行った。中国の誰でも同じ服装で教育を受ける姿、これに対してハワイのみんなが学ばう教育の違ひを感じた。大学卒業後海外青年協力隊で中近東の女性に出会った。世界では「世界女性会議」が開催されているときに「女性は顔を見せてはならない」「黒一色の女性の姿」に大きな衝撃を受けたなど、これまでの体験を話し自己紹介に代えた。

本題に入り「世界のウチナンチュ大会」継続のために一人の子ども達を対象に出前授業、大人には「世界のウチナンチュ版の地球の歩き方」の本を作成し、一役を担ったと語る。その後、ワークショップで「沖縄移民の歴史」をみんなで学んだ。

① 沖縄移民クイズ、「Q、戦後で物が無い時代ハワイに移住した日系人たちが送ってくれた豚の数は何頭?」A、550頭「募金を集めて沖縄のために送った。」② 写真から読み取るポートランゲージ(グループワーク)写真を見て、何をしているか、どの国かを話し合う。「星条旗があるから、アメリカ(沖縄移民の始まりはハワイで、12時間働かされた奴隷のかわりに送られたと玉城氏が解説する) ③ 沖縄移民の歴史を別紙で学ぶ ④ 体験記(沖縄移民)から男女の視点の違いを知る「男性は、アル中になり、自暴自棄、家族崩壊、つらかった、または、自慢話が多い」「女性たちは、地域と繋がりがたくましく生き抜く体験記が多い、大変だった夢や希望を持っている」⑤ 映像視聴(沖縄移民の歴史と世界のウチナンチュ大会)⑥ なぜ、私たちは外とつながる必要があるのか(グループワーク)「興味や情報を得る、いろいろな国の文化や歴史を知る、一人では生きていけないから、他者理解をする、平和を守るため」等と考えを出し合った。
〈講師のまとめの言葉〉
「世界のウチナンチュ大会に来る人は、沖縄を見に来る。自分のルーツを探し、自分と同じものを求めている。女性の逞しさや優しさ、しなやかさ見て、お互いに共鳴し合うことが大切だと思う」

當山君子さん受章おめでとう!!

當山君子さん(15期)は2022年春の叙勲で瑞宝双光章「人権擁護功労賞」を受章された。今回の受章は35年にわたる人権擁護委員の実績に対する功労賞である。

那覇生まれ(S18年)、那覇育ちの當山さんは仕事を通して知り合った夫と1969年結婚。恩納村の住民となり夫と共に農業に従事。同時に地元安富祖公民館の書記となり、農家の子供の「預かり保育」や婦人会や子供会などに関わっていく。この間、近畿大学通信教育にて社会福祉主事や保育師の資格を得る。



瑞宝双光章

1995年頃農水省推進による「家族経営協定」を実践する中で無口な夫との



當山君子さん

会話が次第に増え、女性の地位向上、男女共同参画社会の実現を目指す當山氏は海外の実態も知りたいと女性の翼に参加。1998年オーストラリア、ニュージーランドに研修。

そこで知ったグリーン・ツーリズムを是非我が地元でも実践したいと様々な準備を重ねる。2008年にはファームINナビの里で本格的なツーリズムを始める。また恩納村議会議員選挙に立候補することを決意。夫や親戚縁者の協力はもちろんのこと地域の女性の協力を得て2002年見事当選。以来3期12年の議員生活を送る。このような中、人権擁護委員として活躍した。二人三脚で農業経営に携わってきた夫は2016年に他界。一時はツーリズムを離れたが、「女性の翼」のメンバーに大きく支えられ、再び始めることが出来た。このときの感謝の思いが翼への働きに通じている。今、當山氏は女性の翼の理事であり、資金調達委員会委員長として、翼の運営のための大事な役割を担っている。これからも健康に留意され地域に愛され続ける當山氏であることを祈念してやまない。

interview

企業・団体賛助会員へのインタビュー

有限会社近代住宅を訪ねて



有限会社近代住宅
取締役専務
運天久美子氏

今年で35周年を迎えられた豊見城市の有限会社近代住宅を訪問、創業からのお話を伺いました。対応して下さったのは取締役専務として手腕を発揮しておられる運天久美子さんです。

有限会社近代住宅を、創業当初から社長である夫と二人で力を合わせて発展させることが出来たのは、お互いに役割分担をしながら、夫婦円満で協力してきたからで、家庭も仕事もうまくいった秘訣だと話されました。また、人の大切な財産である不動産を扱う仕事なので、お客様や大家さんとの信用・信頼関係を築く事が大切で、コロナ禍でも業績を維持する事ができたし、それがまた次の仕事に繋がるとの事でした。久美子専務は、若い頃美容部員として接客業に携わっており、人と接する事が大好きとおっしゃる明るい笑顔から暖かい社風を感じさせられました。

今後は、売買・賃貸より管理業をより充実させていきたいと話され、大家さんやお客様ともお互いにウイン・ウインの関係でお付き合いをしていき、地域にも貢献して行きたいと抱負を語られました。

賛助会員の声

宿泊研修に参加して、知らないことがたくさんあり、大きな学びがありました。研修会があって、女性の活躍があると思います。私自身、社会貢献したいと思っています。OK基金があるのはとても素敵です。これからも女性リーダーの育成に力をいれてほしいです。

編集後記

広報委員のメンバーの中には、海外・国内セミナー及び宿泊研修会ではたくさんの素敵な講演を聞いて役得だと思えるという声もきかれました。皆様、感想をお寄せください。 広報委員会



一般社団法人 沖縄県女性の翼

賛助会員続々入会

沖縄県女性の翼

検索

HP

